

外国人雇用 ①

建設産業、とりわけ建設現場の最前線で工事を担う専門工事業において、若年入職者の確保が難しく、人手不足が深刻化している中、新たな担い手として外国人労働者に目目が集まっている。外国人を雇用するうえで何が重要なのか。どのようなスタンスで、いかに取り組むべきか。首都圏での仕事を中心に、積極的に外国人雇用に取り組んでいるコンクリート匠送業大手・(株)ヤマコン代表取締役社長の佐藤隆彦氏に、同社における外国人雇用の実態を語ってもらった。4回にわたって紹介する。

国の実習生制度で雇用

「当社では、国の研修生・実習生制度を活用し、平成12年から外国人の雇用に踏み切りました。当時は中国から技

ヤマコン社長

佐藤 隆彦氏



「外国人の雇用には2つの観点があります。1つは外国への技術移転です。われわれが活用している国の実習生制度は、この1点を目的として運用されています。対象となる国は東南アジア系が多くな

「外国人の雇用には2つの観点があります。1つは外国への技術移転です。われわれが活用している国の実習生制度は、この1点を目的として運用されています。対象となる国は東南アジア系が多くな

10年以上活用、中国からベトナムに転換

「当社には当時から東京支店がありましたが、当社は設立当初から土木系を得意とするコンクリート匠送業であり、土木の仕事だけをしてい

「こうしたなか、社内で建築に軸足を移していくことを決断したのですが、土木では1〜2人でできた仕事が建築では1班で3人は必要になります。体制を大きく変えなければなりませんでしたが、関東地区で思つように人を増やせず、対応策をいろいろと調べているなかでたどり着いたのが外国人実習生制度でした」

(つづ)